

I N D E X

- BIO-Europe Spring 2013 リポート
 - 産業技術総合研究所 創薬分子プロファイリング研究センター設立のご案内
 - BioPh Japan (バイオフィーマージャパン) 開催のご案内
-

■ BIO-Europe Spring 2013 リポート

ヨーロッパ最大級の製薬・創薬を中心としたバイオ分野のイベントである **BIO-Europe Spring 2013** が、3月11日(月)から3月13日(水)の3日間にわたって、スペインのバルセロナで開催されました。本イベントは毎年11月に開催されている「**BIO-Europe**」の姉妹イベントで、パートナーリングに力を入れたイベントとして2007年から開催されています。

今回印象的だったのは、去年秋に開催された **BIO-Europe 2012** に比べて **iPS** の注目度がヨーロッパでも高まっているということです。ヨーロッパとえばこれまで **ES** 細胞(胚性幹細胞: **Embryonic Stem cells**) を用いた研究が主流であったのが **iPS** 細胞にシフトしつつあるようです。

欧州委員会と欧州製薬業団体連合会 (**EFPIA**) の官民連携プログラムとして2007年に設立された **Innovative Medicines Initiative (IMI: 革新的医薬品イニシアティブ)** は、5年間で **5,560** 万ユーロ(約 **80** 億円) を投じ、ロシュ社によるコーディネートで **StemBANCC** プログラムを開始しました。このプログラムにはヨーロッパ系の製薬企業 **10** 社と **23** のアカデミアが参加しています。 **500** 人の患者に由来する **1,500** の **iPS** 細胞株のバンクを作製し、これらを用いて糖尿病や認知症など慢性疾患の研究を行い、新薬の開発を加速することを目的としています。日本では、京都大学 **iPS** 細胞研究所 (**CiRA**) が **iPS** 細胞バンクの構築を進めていますが、こちらは再生医療用(細胞移植)に重点をおいたものであり、

安全性が確認できた細胞を臨床試験に使用することを目的としているので、同じ iPS 細胞バンクですが、目的は全く異なるようです。

iPS の他に注目を集めていたのが「Personalized Medicine (個別化医療)」です。マイクロアレイや次世代シーケンサー (NGS : Next Generation Sequencing) の技術革新により、大量の遺伝情報を短時間で取得できるようになりました。これらの取得した遺伝情報によって個人の体質や特徴を決定し、一人ひとりに最適な治療法や薬剤の選択を行うことが可能となります。BIO-Europe Spring 2013 では NGS 関連の出展や企業プレゼンも多くみられましたが、「Personalized Medicine」の実現にはまだ課題が多く、本格的に実施できるのは 2020 年ぐらいからではないかとの発表もありました。

■産業技術総合研究所 創薬分子プロファイリング研究センター設立のご案内

お台場にある産業技術総合研究所 バイオメディシナル情報研究センター (BIRC) はこの 3 月末を持って終了となり、新しく創薬分子プロファイリング研究センター (molprof : Molecular Profiling Research Center for Drug Discovery) が 4 月 1 日に設立されました。

この新センターは、バイオ計測とバイオ IT という最先端の技術を融合することによりアカデミアと創薬企業との橋渡しを行い、探索研究と臨床研究との間のボトルネックを解消する産学官「一体」型創薬を実現し、日本の創薬力を飛躍的に向上させることを目標に誕生しました。

このセンターの研究センター長には、BIRC で質量分析によるタンパク質相互作用解析を行っていた夏目チーム長が、副研究センター長には、生命情報工学研究センター (CBRC) で数理システム解析により生体ネットワーク解析を行っていた堀本チーム長が就任されております。

このセンターにおける研究内容のポイントは、次の 3 つです。

- (1) バイオ計測とバイオ IT を融合することにより、医薬分子が、生体内においてどのようなメカニズムで薬効を発揮しているかを明らかにする基盤技術確立する。
- (2) ドロップ薬の再開発と新規開発薬の臨床研究へのステップアップを効率化する。

(3) 医療機関や製薬企業などとの連携により創薬産業を活性化させ、産学官が一体となって取り組む創薬を実現する。

詳細については、下記の発表リリース文を参照ください。

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2013/pr20130401/pr20130401_2.pdf

■ BioPh Japan (バイオフア-マジヤパン) 開催のご案内

今後益々注目を浴びるバイオ医薬品業界。その最新技術・サービス・研究成果が一堂に集結する『BioPh Japan (バイオフア-マジヤパン)』が開催されます。会期中は世界中からバイオ関連企業が出展・来場します。バイオ医薬品は世界中で急速に成長している分野の1つです。各製薬メーカーにとっては、今後、“バイオテクノロジー”が企業の成長のキーポイントになってきます。BioPh Japan、4展示会と併催することによって、バイオ関連企業はもちろん、製薬・医薬業界から多数ご来場するため、幅広く、効率が良いマーケティングが可能です。また、CPhI、ICSE、P-MEC、BioPhは、UBMが日本以外でも、欧州、インド、中国、南米において毎年開催しているため、世界中からバイオ関連企業の担当者が来場します。

開 | 催 | 概 | 要 |

展示会名: BioPh Japan 2013

同時開催: CPhI Japan / ICSE Japan / P-MEC Japan/ Pharmatec Japan

会期: 2013年4月24日(水)・25(木)・26(金) 10:00-17:00

会場: 東京ビッグサイト 東4&5 ホール

主催: UBM ジャパン株式会社、UBMi BV、化学工業日報社

同時開催: MEDTEC Japan 2013 (医療機器の設計・製造に特化した専門展示会)

出展社数: 500社(予定) *併催展との合計

来場者数: 15,000人(予定) *併催展との合計

BioPH Japan URL: <http://www.cphijapan.jp/info/bioph.html>

CPhI URL: <http://www.cphijapan.jp/>

【BioPh Japan ご出展のお問い合わせ】

CPhI Japan 運営事務局 (UBM ジャパン株式会社内)

担当: 仁藤、大内、中村、友利

TEL: 03-5296-1020

FAX: 03-5296-1018

Email: info@cphijapan.com

URL: <https://ubm-japan.com/cphi/form/request.php>

=====
めるまが1月号より「JBIC 会員企業からのご案内」の項目を新設しました。
JBIC 会員企業で掲載して欲しい記事がございましたら、ご連絡ください。
なお、掲載の可否については JBIC 事務局にて判断させていただきますので予め
ご了承ください。

●JBIC に関するご意見、ご質問、お問い合わせはこちらから。

<https://www.jbic.or.jp/roku/voicebox/input.html>

●配信中止、変更はこちらから。

https://www.jbic.or.jp/roku/m_chushi/input_ch.html

●発行:一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム

JBIC めるまが編集部 <http://www.jbic.or.jp/>

Copyright(c) 2013 JBIC. ALL rights reserved.